

大道芸ワールドカップ in 静岡 2022 について

総括

3年ぶりの開催となった大道芸ワールドカップ in 静岡 2022 は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、海外からのアーティスト招聘を行わず、日本在住のアーティスト 32 組が参加。開催期間を 11 月 5 日(土)・6 日(日)の 2 日間とし、駿府城公園、青葉シンボルロードを中心に固定ポイント 12 か所、ウォーキングエリア 3 か所と例年に比べ半分以下に縮小して実施しました。

会場には、2 日間で 69 万人の来場者があり、規模を縮小したにもかかわらず、多くのお客様に、卓越したアーティストたちのパフォーマンスを楽しんでいただくことができました。

一方、開催に向けた準備が始まったのが 6 月下旬と、例年より半年遅れてのスタートだったことから、ボランティア募集なども滞り、研修回数が少なくなるなど様々な弊害が発生しました。

それでも 3 年ぶりに集まったベテランスタッフの方々がキビキビした動きを見せ、演技ポイント、救護、迷子、車椅子サービス、ゴミ拾いの天使の羽プロジェクト、広報など、各担当者がしっかりと仕事をこなし、30 年近い歴史を積み重ねたボランティアスタッフのレベルの高さを示してくれました。

しかし、この本番の 1 ヶ月前、前プロデューサーの差別的な発言が問題となり、プロデューサーを解任、実行委員長が引責辞任するという状況に陥り、開催そのものが危ぶまれる事態となりました。

前プロデューサー差別的発言問題 経緯とその後

9 月 17 日のポイントリーダー研修会で奥野晃士前プロデューサーの講演がありました。

「日本人パフォーマーによる日本人らしい祭典を目指す」という和のイメージを意識したテーマでした。この席で前プロデューサーは、自ら作成した資料に基づいて講演しましたが、その中で日本人の優れた面を強調するために、他民族を引き合いに出すなどの差別的な言動がありました。大道芸ワールドカップは、これまで広く海外に目を向け、開かれた大会であることを旨として運営してまいりました。今回の前プロデューサーの発言は、それを大きく逸脱するもので、決して看過することはできません。また、こうした事態に陥った背景には、講演内容の事前チェックの不備、不適切発言認識後の組織としての対応など、実行委員会内のガバナンスの欠如もありました。このことから、10 月 7 日付けで差別的発言をした奥野プロデューサーを解任し、杉山茂之実行委員長も引責辞任しました。

この事態をうけ、猪股宏光副委員長が委員長代理を務め、新たに組織管理グループを設置、研修会の内容、使用する文書、各セクションの動きを把握するほか、委員会内の情報共有を徹底し再発防止に努めることになりました。

謝罪会見後、アーティスト、協賛スポンサー、ボランティアスタッフ等へ開催した場合の考えを確認したところ、多くの方面から参加するとのご回答をいただいたことから、10 月 15 日の実行委員会全体会議の合意を得て改めて実施することを決定し、前述のように大会を開催しました。

一方、一部のアーティストから求められていた差別的発言に関する説明会は、大会前日の 11 月 4 日に 1 回目を行いました。この会には、アーティスト 12 名、実行委員会側からは静岡市の担当者を含め 10 数名が参加しました。話し合いでは、前プロデューサーの発言について、なぜ事前にチェックできなかったのか、前プロデューサー個人の問題よりも組織管理の問題の方が大きいとする意見や、前プロデューサーが解任され、実行委員長も辞任したことで、この問題は決着したのではないかとする意見もありました。また、実行委員会のガバナンスが問題なので、法人化や組織改革にもアーティストの考えが入れられるべきとする提示もありました。これに対してアーティストはあくまで演技者であって、そこまで踏み込むのは越権だとする意見も出ていました。

2 回目の話し合いは 12 月 20 日に静岡市内で開かれました。

この会には、アーティスト、大道芸イベントに携わる方々、地元商店会関係者ら 9 名が出席、実行委員会からも 8 名が参加しました。

この意見交換会では、①前プロデューサーの差別発言問題、②実行委員会の運営の在り方③大道芸ワールドカップの今後の運営方針、これらについて意見が交わされました。実行委員会側の差別に対する認識の甘さが、今回の問題を引き起こしたのではないかと。再発防止のためには、公平でクリーンな運営をしていかなければならないのではないかとといった意見がありました。これに対して実行委員会側からは、関係する業者選定や会計処理などについては、静岡市の指導を受けながら適切に行っている旨を伝えました。

また、地元商店街との関わり方については、大道芸イベントが地域活性化に繋がるよう、地元との話し合いをより一層重視して取り組んでいくと述べました。

ボランティアスタッフの負担軽減についても指摘されましたが、こちらについても今後の重要な課題として受け止めていく事になりました。

実行委員会では、今回出された意見や課題を今後の活動の参考にしていきたいと考えています。この意見交換会についての詳細は、後日公表する予定です。

なお、大道芸ワールドカップ実行委員会では、2023 年度の大会実施について現在検討をしています。今後の方針が固まった段階で公表する考えです。